



# Magic xpi 4.13

## インストールガイド補足

**OUTPERFORM THE FUTURE**

Magic Software Japan K.K.



# 目次

---

- 第1章 インストール前作業
  - 1.1 8dot3nameの確認
  - 1.2 IISのインストール
  - 1.3 内部DBで使用するDBMSのインストール
  - 1.4 JDK1.8のインストール
- 第2章 インストール
  - 2.1 インストールの流れ
  - 2.2 注意事項
- 第3章 インストール後作業
  - 3.1 Windowsサービスの設定
  - 3.2 MSSQL ポートの設定(内部DBでMSSQLを使用した場合)
  - 3.3 確認



# 第1章

## インストール前作業



OUTPERFORM THE FUTURE™

# 1.1 8dot3nameの確認

---

- Magic xpiをインストールするドライブは「**8dot3name**」が有効でなければなりません。
- 以下のコマンドで確認します(管理者権限で)。

> **fsutil 8dot3name query** <インストールしようとするドライブ>

例 :

> **fsutil 8dot3name query D:**

- 有効でない場合、以下のコマンドで有効にします (管理者権限で)。

> **fsutil 8dot3name set** <インストールしようとするドライブ> **0**

例 :

> **fsutil 8dot3name set D: 0**



## 1.2 IISのインストール

- サーバーマネージャの「役割と機能の追加」より、「Webサーバー（IIS）」を選択。
- デフォルトの役割サービスの他に、下記の役割サービスを有効にする。

- ✓ Webサーバー

- ✓ HTTP共通機能

- ✓ 既定のドキュメント

- ✓ 静的なコンテンツ

- ✓ セキュリティ

- ✓ 要求フィルター

- ✓ アプリケーション開発

- ✓ .NET 拡張機能 4.5

- ✓ ASP.NET 4.5

- ✓ CGI

- ✓ ISAPI フィルター

- ✓ ISAPI 拡張

- ✓ 管理ツール

- ✓ IIS 管理コンソール

- ✓ IIS 6 管理互換



# 1.3 内部DBで使用するDBMSのインストール

---

- Magic xpiはログ等の管理のためデータベースを使用します。

- 日本でサポートされる内部データベースは次の通り。

- Oracle : 12c、18c、19c

- MSSQL : 2008以降

ただし、比較的新しいバージョン : 2014以降の使用を推奨します

- 他のDBMSは内部データベースとしてサポートされません(アクセス可能なDBMSとは別)。

- 互換性ガイド、インストールガイドの記述に誤りがありました。

- ここに訂正させていただきます。



## 1.4 JDK1.8のインストール

- Magic xpi 4.13では、インストールする前にJDK1.8(**32bit、64bitともに**)をインストールする必要があります。
- インストーラーには同梱されていませんので、別途入手していただく必要があります。
- 以下のJDK1.8がサポートされます。

ディストリビューション	バージョン
Open JDK	Java 8 262
Zule JDK	Java 8 265
Zule JDK	Java 8 262
Oracle JDK	Java 8 241
Amazon Corretto	Java 8 262

※Oracle Java version 1.8 update 261 はサポートされていません。

※Amazon Correttoがお勧め。



# 第2章 インストール

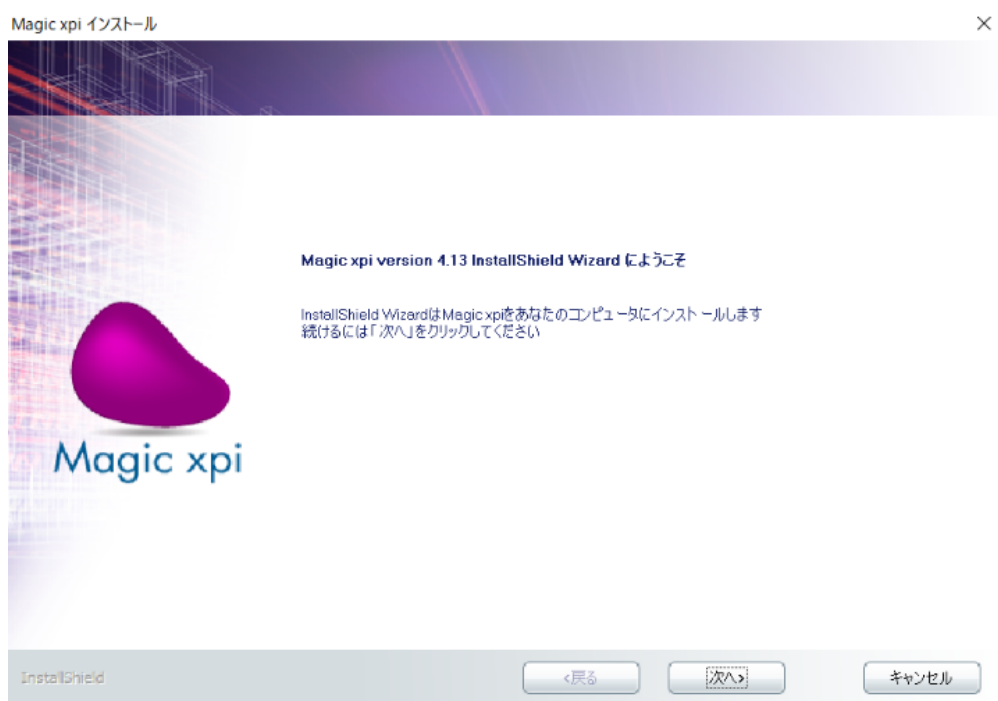


OUTPERFORM THE FUTURE™



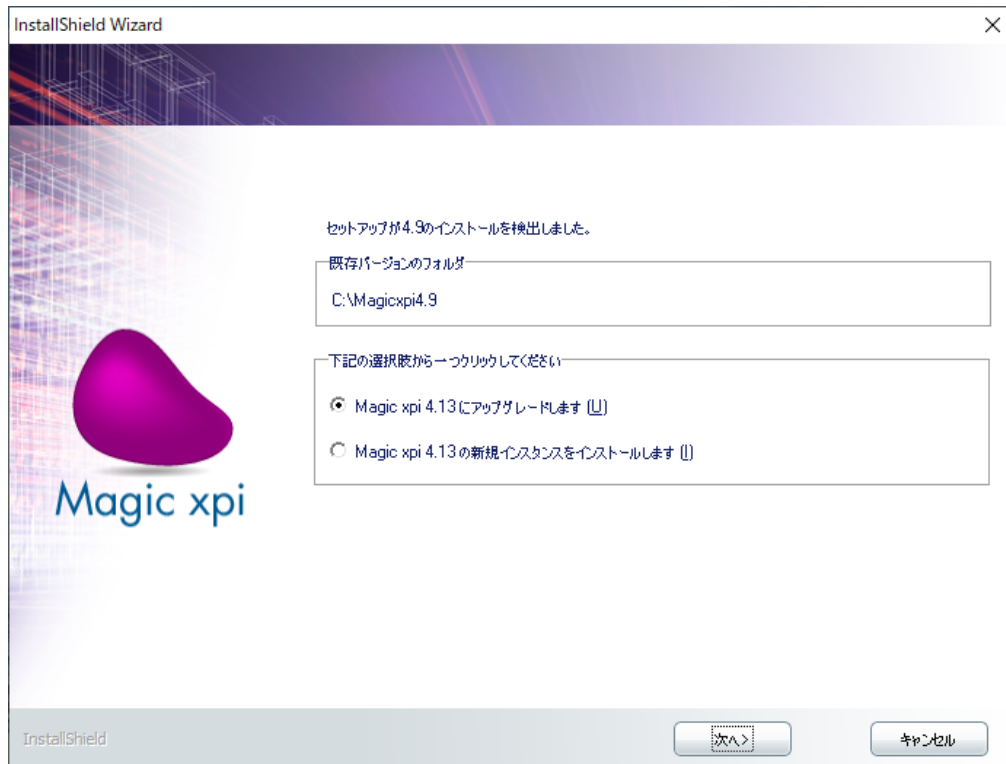
## 2.1 インストールの流れ

- インストールはコンピュータに対するAdmin権限を持つユーザーで実施します。  
例：Administrator



## 2.1 インストールの流れ

- 過去バージョンがインストールされていると、「過去バージョンに上書き」するか「新たにインストール」するか確認されます。



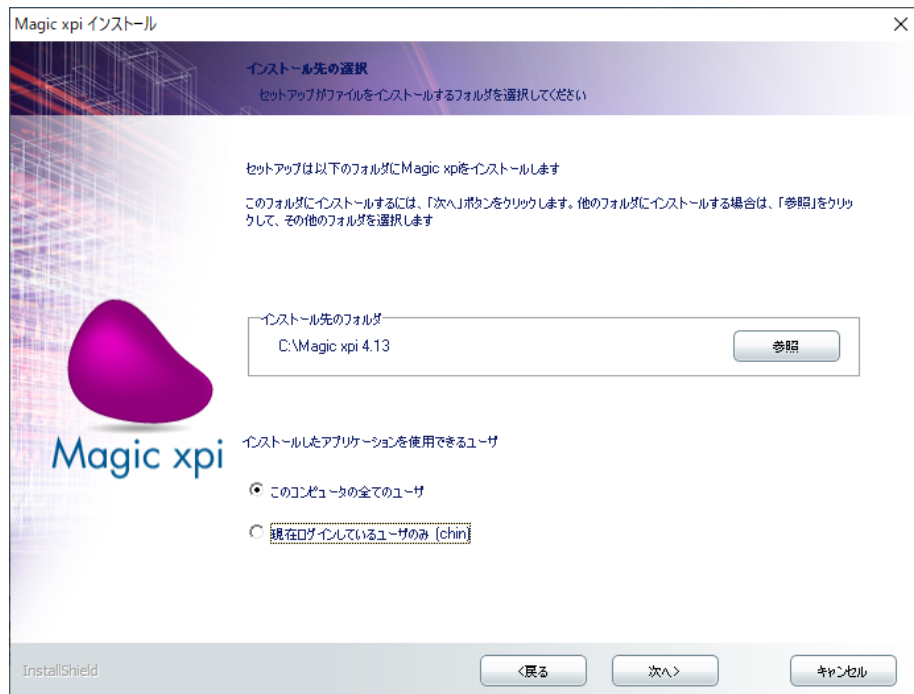
- 過去バージョンとMagic xpi 4.13は同居することはできません。
- ただし、過去バージョンとMagic xpi 4.13を同時に時実行することはできません。
- Magic xpi 4.13の新規インストールをお勧め。

# 2.1 インストールの流れ

## ■ 使用許諾契約

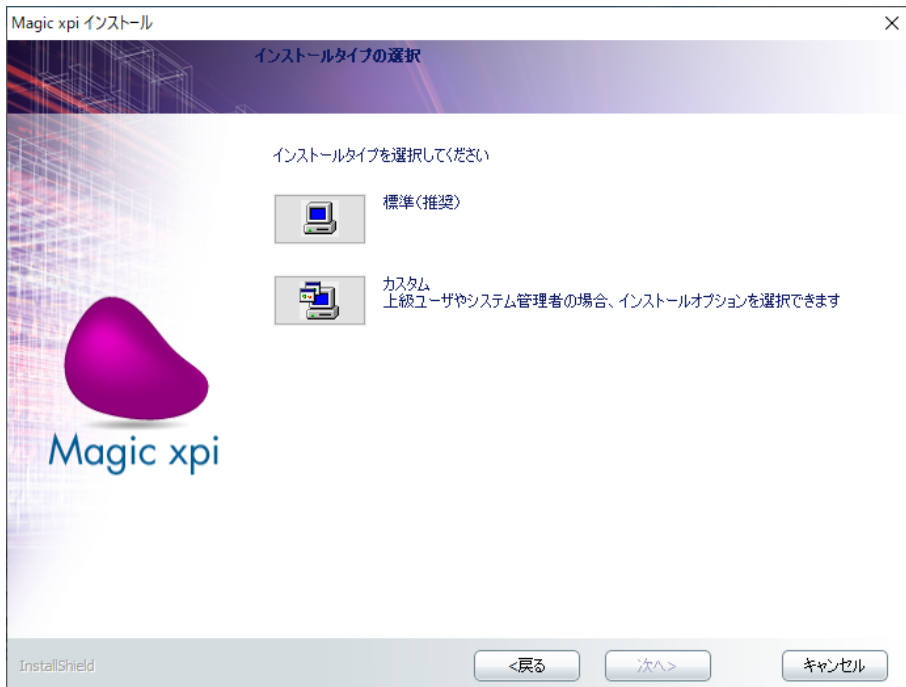


## ■ インストール先の選択

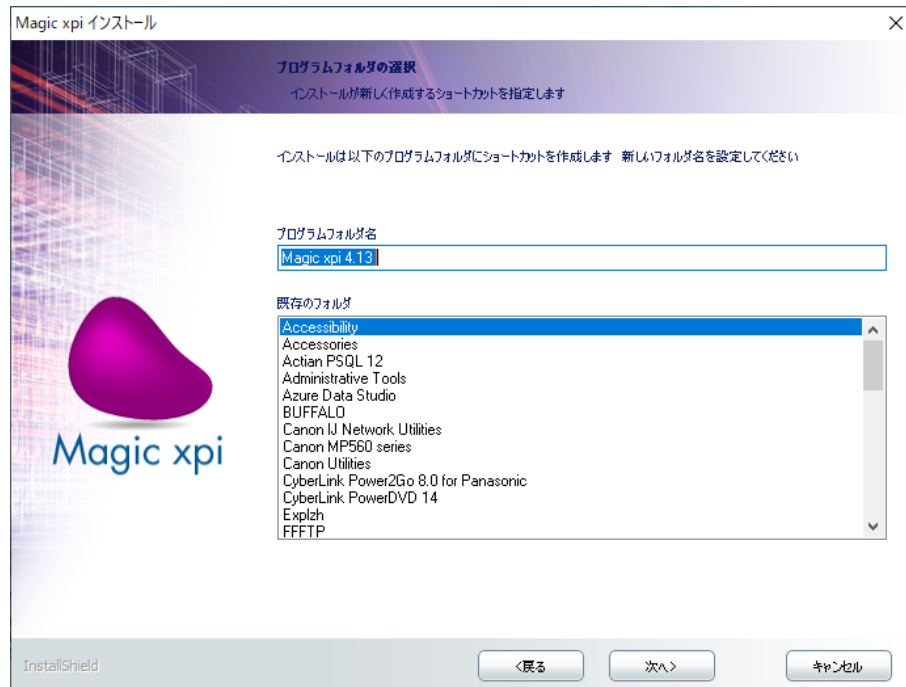


# 2.1 インストールの流れ

## ■ インストールタイプの選択

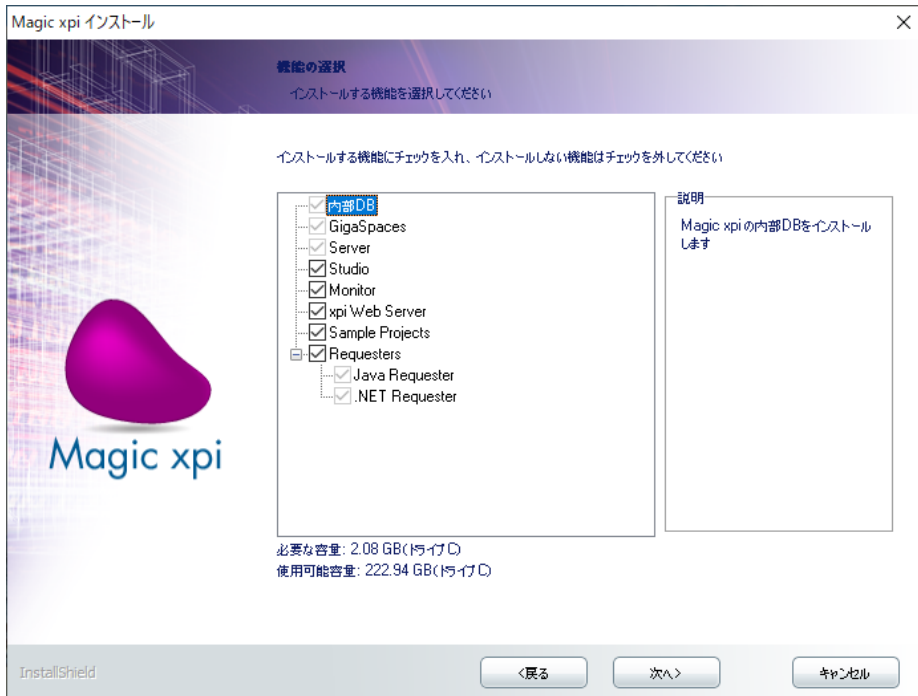


## ■ プログラムフォルダの選択

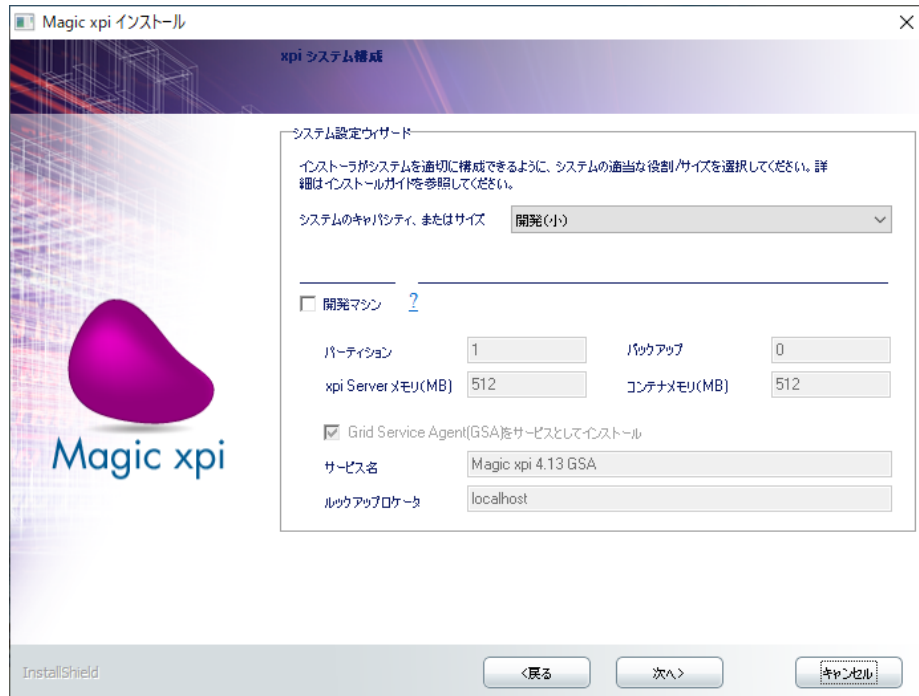


# 2.1 インストールの流れ

## ■ 機能の選択



## ■ システム構成



※開発用PCにインストールする際は「開発(小)」を選びます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

# 2.1 インストールの流れ

## ■ システム構成

Magic xpi インストール

xpi システム構成

システム設定ウイザード

インストーラがシステムを適切に構成できるように、システムの適切な役割/サイズを選択してください。詳細はインストールガイドを参照してください。

システムのキャパシティ、またはサイズ **標準(中)**

高可用性を実現するには、3ノードのクラスタ構成を推奨します。

開発マシン

パーティション	1	バックアップ	1
xpi Server メモリ(MB)	3072	コンテナメモリ(MB)	1024

GigaSpaces Agent (GSA) をインストールする

サービス名

ルックアップローカ

InstallShield

<戻る 次へ キャンセル

## ■ システム構成

Magic xpi インストール

xpi システム構成

システム設定ウイザード

インストーラがシステムを適切に構成できるように、システムの適切な役割/サイズを選択してください。詳細はインストールガイドを参照してください。

システムのキャパシティ、またはサイズ **標準(大)**

高可用性を実現するには、3ノードのクラスタ構成を推奨します。

開発マシン

パーティション	2	バックアップ	1
xpi Server メモリ(MB)	4096	コンテナメモリ(MB)	2048

GigaSpaces Agent (GSA) をインストールする

サービス名

ルックアップローカ

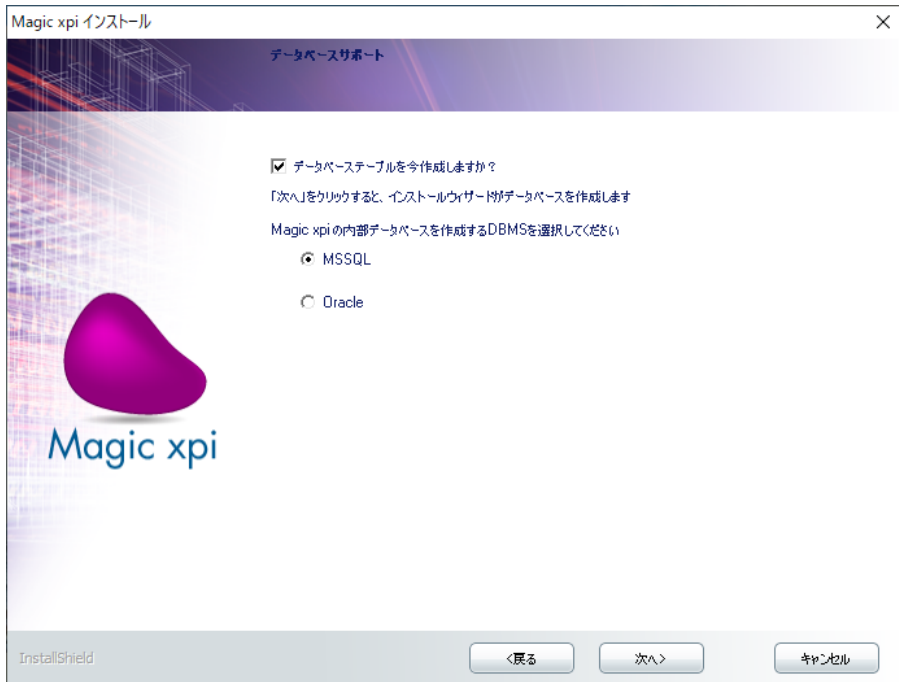
InstallShield

<戻る 次へ キャンセル

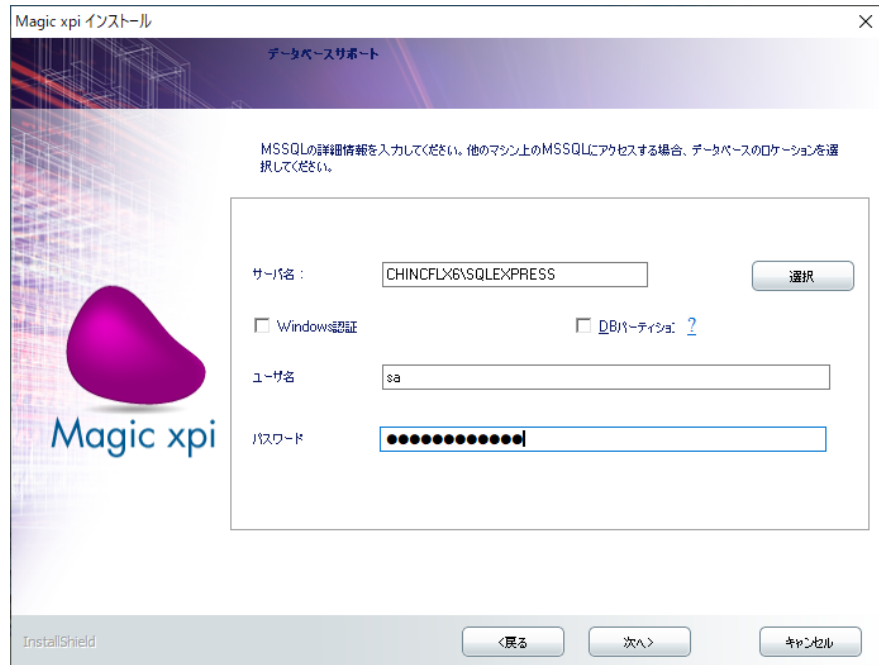
※ミドルウェアGigaSpacesが使用するメモリサイズが異なります。

# 2.1 インストールの流れ

## ■ 内部データベースの選択



## ■ 内部データベースの設定

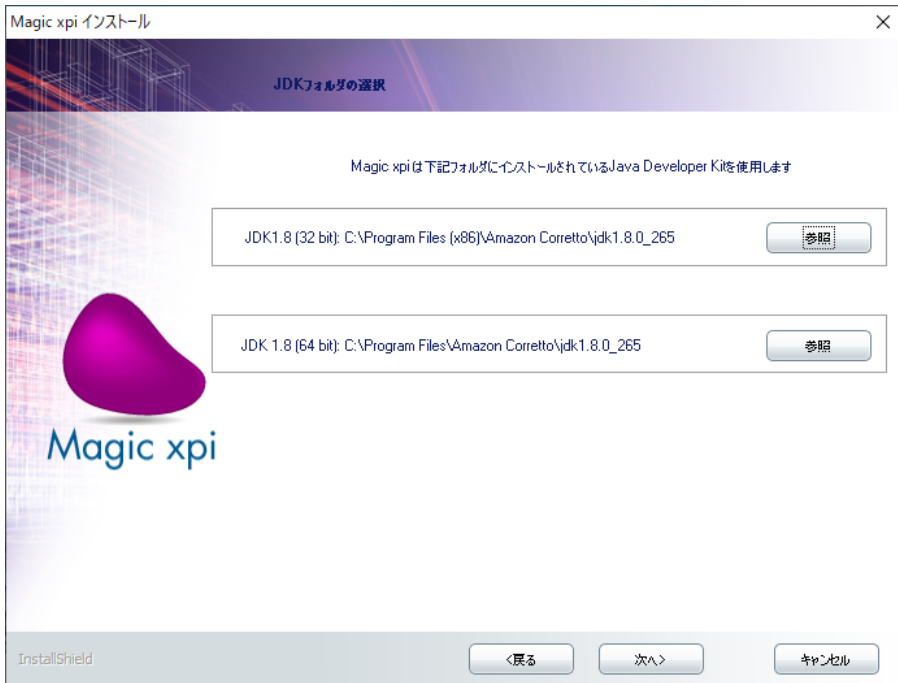


※MSSQLでの例

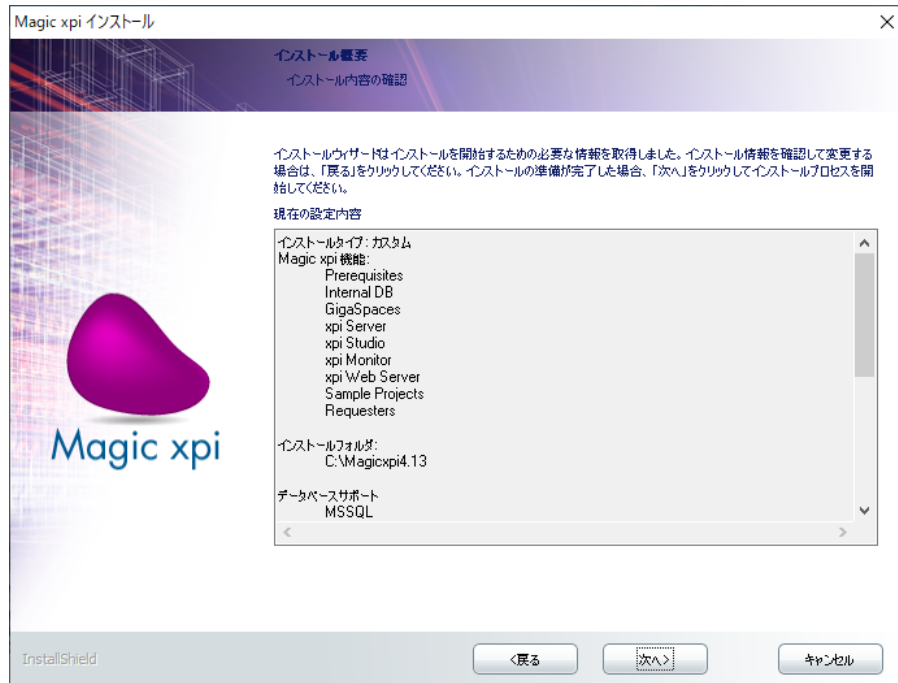


# 2.1 インストールの流れ

## ■ JDKの選択



## ■ サマリー





## 2.2 注意事項

---

- TCPListenerClientである「TcpTriggerTool.exe」はインストーラーから自動的にインストールされません。  
<インストールメディア>¥ TCPListenerClient フォルダに格納されています。  
適当なフォルダにコピーし、使用してください。
- Local Agent はインストーラーから自動的にインストールされません。  
詳細は別途説明資料をお読みください。



## 第3章

# インストール後作業



OUTPERFORM THE FUTURE™

## 3.1 Windowsサービスの設定


---

- Magic xpi 4.13をインストールすると、Windowsサービスに以下のエントリが作成されます。
  - Magic xpi 4.13 Debugger
  - Magic xpi 4.13 GSA
  - Magic xpi 4.13 Monitor Display Server
  - Magic xpi 4.13 Soap Service
  
- 上記4サービスはデフォルトではログオンユーザーが「Local System」アカウントとして作成されますが、これを変更します。 ※「Local System」のままの運用はお勧めしません
  - Administrator : インストールしたサーバ管理者権限を持つアカウント
  - 独自ユーザー(MagicxpiUserなど) : ローカルサーバに対するAdmin権限を持つユーザー
  - Networkドライブにアクセスする際はそのアクセス権を持つユーザーを指定



# 3.1 Windowsサービスの設定

## ■ 設定例

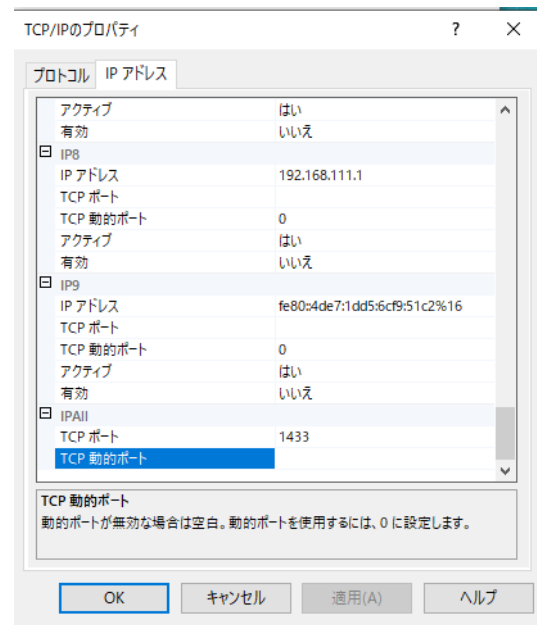
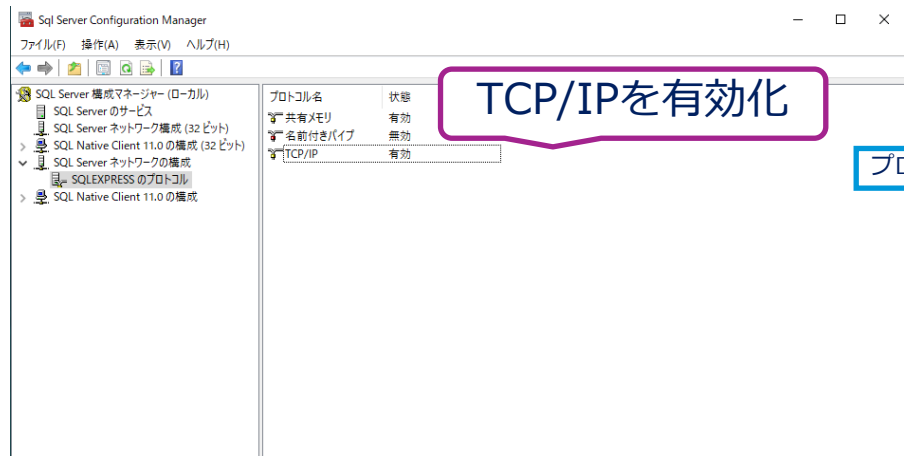


名前	説明	状態	スタートアップの種類	ログオン
Microsoft Update Health Service				
<a href="#">サービスの停止</a>				
<a href="#">サービスの再起動</a>				
Magic xpi 4.13 Debugger	Magi...	実行中	自動	.\%Magicxpi413GigaSpace
Magic xpi 4.13 GSA		実行中	自動	.\%Magicxpi413GigaSpace
Magic xpi 4.13 Monitor Display Server		実行中	自動	.\%Magicxpi413RTView
Magic xpi 4.13 Soap Service	Apac...	実行中	自動	.\%Magicxpi413Soap



## 3.2 MSSQL ポートの設定

- 内部DBにMSSQLを使用する場合、インストール後に以下の設定を行います。
  - SQL Server 20XX 構成マネージャーを使用し、MSSQLが使用するポートの設定を行います。



TCP動的ポートを空白に設定

## 3.3 確認

- デスクトップ上に作成される「Magic xpi 4.13」フォルダー内の「GigaSpaces - UI」を起動します。

名前	更新日時	種類
Configuration File	2020/10/27 17:21	ファイル フォルダ
Help	2020/10/27 17:21	ファイル フォルダ
GigaSpaces - UI	2020/10/27 17:20	ショートカット
GigaSpaces - 実行	2020/10/27 17:20	ショートカット
Magic xpa スタジオ	2020/10/27 17:21	ショートカット
Magic xpi スタジオ	2020/10/27 17:21	ショートカット
Magic xpi のアンインストール	2020/10/27 17:21	ショートカット
Magic モニタ	2020/10/27 17:21	ショートカット
コネクタビルダ	2020/10/27 17:21	ショートカット
環境設定	2020/10/27 17:21	ショートカット

The screenshot shows the GigaSpaces Management Center interface. The left pane displays a tree view under 'Hosts' for 'CHINCFLX6'. The tree structure is as follows:

- Hosts
  - Utilization
  - gsa[9724]
  - gsc-1[3260]
    - mgxpi-gs.1 [1]
      - MAGIC\_SPACE
      - Event Containers
  - gsc-2[8028]
    - mgmirror-gs [1]
      - mirror-service
    - mginfo-gs.1 [2]
      - MAGIC\_INFO
      - Event Containers
  - gsc-3[1572]
    - mgxpi-gs.1 [2]
      - MAGIC\_SPACE
      - Event Containers
    - mginfo-gs.1 [1]
      - MAGIC\_INFO
      - Event Containers
  - gsm-4[10900]
  - lus-5[9444]

The right pane shows details for the selected host, including IP address (192.168.238.1) and memory usage (18363, 64 bytes). Below this, a 'Services' section lists the components shown in the tree view.

- 左側
  - gsa
  - gsc
  - gsm
  - lus

の4種類が表示されていることを確認します

- 右側
  - MAGIC\_SPACE
  - MAGIC\_INFO

の2種類が表示されていることを確認します

# THANK YOU!



OUTPERFORM THE FUTURE™

